

流路切り替えバルブのポジションとフローの関係

解説 (酸化モード・酸化還元モード)

標準物質校正システム(TE-1000)では、酸化モードと酸化還元モードの2つの測定方法をご用意しております。酸化還元モードでは、試料は下記の反応式①のように反応し、試料がメタン(CH₄)に変換された後、FID (Flame Ionization Detector、水素炎イオン化検出器)にて試料はメタンとして検出されます。

酸化モードでは、試料は下記の反応式②のように反応し、試料が二酸化炭素(CO₂)に変換された後、FIDに導入されます。一般的に二酸化炭素はFIDで検出されませんので、試料のピークが検出されないことを確認することで酸化反応に異常がないことを確認できます。

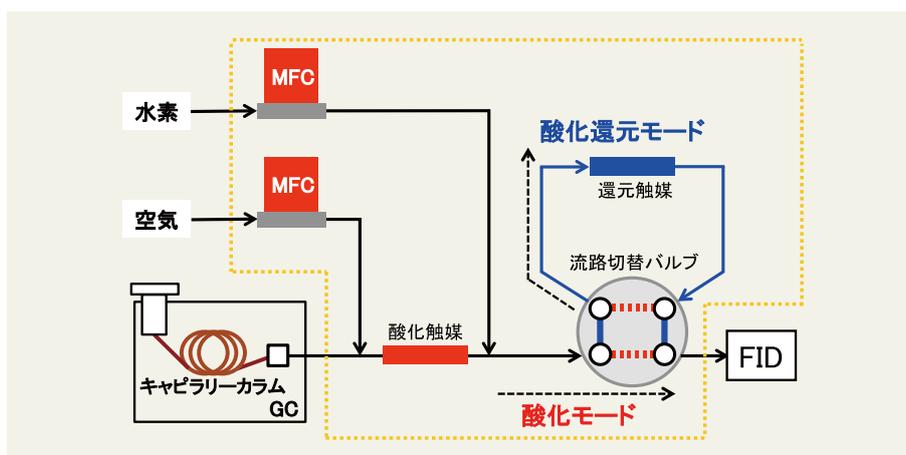
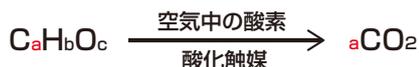


図1.流路切替バルブポジションとフローの関係

反応式① (試料を炭素(C)、水素(H)、酸素(O)から構成される化合物として表示)



反応式②



解説 (還元反応の確認方法)

還元反応は図2のような構成で確認します。図1記載の酸化触媒管を外し、空の配管に付け替えて構成します。図2のように構成することで本来酸化反応が起こる場所で酸化反応が進行せずに還元触媒だけの機能を確認することができます。

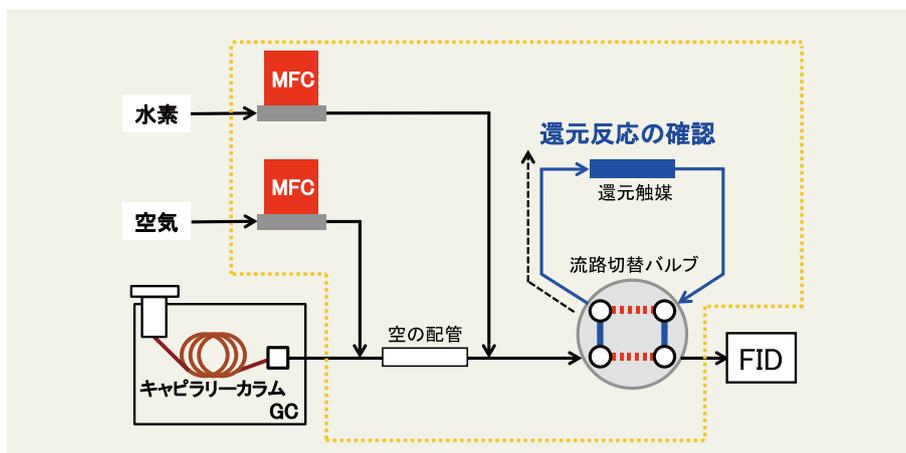


図2.還元反応の確認における構成

IMS

HORIBAグループでは、品質ISO9001・環境ISO14001・労働安全衛生OHSAS18001を統合したマネジメントシステム (IMS:JQA-IG001) を運用しています。さらに事業継続マネジメントISO22301を加え、有事の際にも安定した製品・サービスを提供できるシステムに進化しました。



正しく安全にお使いいただくために、ご使用前に必ず取扱説明書をお読みください。

- このカタログの記載内容については、改良のために仕様・外觀等、予告なく変更することがあります。●このカタログの製品詳細については別途ご相談ください。
- このカタログと実際の商品の色とは、印刷の関係で多少異なる場合があります。●このカタログに記載されている内容の一部または全部を無断転載することは禁止されています。
- このカタログに記載されている製品は日本国内仕様です。海外仕様については別途ご相談ください。●このカタログで使用されている製品画面は、はめ込み合成です。
- このカタログに記載されている各社の社名、製品名およびサービス名は、各社の商標または登録商標です。●希望販売価格は参考価格です。詳しくは代理店、販売店にお尋ねください。

HORIBASTEC

株式会社 堀場エステック

〒601-8116 京都市南区上鳥羽鉾立町11-5 (075)693-2312

<http://www.horiba-stec.jp> e-mail:sales.stec@horiba.com

東京セールスオフィス	〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町2-6(神田淡路町二丁目ビル3F)	TEL (03) 6206-4731	FAX (03) 6206-4740
東北セールスオフィス	〒981-3133 宮城県仙台市泉区泉中央四丁目21-8	TEL (022) 772-6717	FAX (022) 772-6727
山梨セールスオフィス	〒400-0031 山梨県甲府市丸の内二丁目14-13(ダイヤビル3F)	TEL (055) 231-1351	FAX (055) 231-1352
名古屋セールスオフィス	〒461-0004 名古屋市東区葵3-15-31(千種第2ビル6F)	TEL (052) 936-9511	FAX (052) 936-9512
九州中央セールスオフィス	〒861-2401 熊本県阿蘇郡西原村大字鳥子字講米畑358-11鳥子工業団地	TEL (096) 279-2922	FAX (096) 279-3364

HA4511PRT070 TE-1000

Printed in Japan 1608SK00

Explore the future

Automotive Test Systems | Process & Environmental | Medical | Semiconductor | Scientific

HORIBA